



■ あなたの世界を広げる夏に

夏休みから、ではなく7月9日スタートの短縮授業から、みなさんの「高1の夏」がはじまると私は思っています。知っていることを増やし、広げていく体験への期待が、課題という形で表出されていくことと思います。各教科からの課題を、いつまでにどうこなしていきますか。短い夏です、しっかり計画をしていきましょう。

ここまでに溜め込んだ知識や学習習慣は、1年生の秋に成績の伸びとして必ず表れます。「伴走する」教員がいない長期休み中は、自学自習力がすべてとなり、課題への向き合い方こそが大切です。これに背を向けて、せっかくのレベルアップのチャンスを不意にしたり、可能性を自分でつぶしていかないような行動を取りましょう。



各大学のオープンキャンパスは、大半が先着順・あるいは抽選、申込制です。この号を発行する7月7日には、すでに申し込みを済ませていますか？ 志望校がほぼ定まった状態で3年生夏を迎えますので、今年を逃すと、2年生夏に大学を数か所を巡るという無理な計画になることが見込まれます。今年の一つ以上に参加しておきましょう。



そして短い夏とはいえ、普段以上に自由に使える時間があります。そこで、学年の先生方に、「80 期生にすすめたい本」あるいは「自分が高校生・10代の時に読んだ本」を紹介いただきました。読書は、すぐに役に立つものではないかもしれませんが、しかし、あの頃読んだ物語や言葉が、今の私の考え方や感じ方に、確かに影響を与えています。誰かの視点で世界を見たり、知らない時代や場所に思いを馳せたりすることで、自分の中に「もう一つの世界」が育っていくような感覚でした。

今の高校生は、忙しい毎日を過ごしていると思います。スマホやSNS、動画など、情報にあふれた時代の中で、本を読む時間を創出するのは簡単ではないかもしれません。でも、ほんの少しだけでも、本のページをめくってみてほしいのです。

読書は、静かだけれど深い体験です。誰にも邪魔されず、自分のペースで、自分だけの旅ができる。そんな時間が、きっとみなさんの中に何かを残してくれるはずです。もし少しでも興味が湧いたなら、ぜひページを開いてみてください。その一冊が、あなたの未来にそっと寄り添ってくれるかもしれません。



『そしてだれもいなくなった (And Then There Were None)』

(アガサ・クリスティー)

推理小説を好きになったきっかけの1冊です。異なる境遇の10人が兵隊島に集められるも、次々に人がいなくなっていく。死に対する恐怖と安堵。絶望的な状況での10人をイメージしつつ、犯人を突き止めてください。(ちなみに僕は推理小説で犯人を当てられたことはありません。)

(英語・)

『精神分析入門』上・下巻 (フロイト)

中学高校時代は、国語の宿題で読書感想文を書いていました。大学でもありました。無理やり読んでいました。少しずつ時間や余裕、お金も持てるようになり、いろいろな本を読むようになりました。思春期や若者世代、誰しもが少しは興味を持ちませんか？ 人の心、精神なんかを。

(体育・)

『スマホ脳』
(アンデシュ・ハンセン／久山葉子【訳】)

みなさん、スマホのスクリーンタイムはどれくらいですか？スマホに支配されていませんか？この夏は一度、スマホから離れ、“デジタルデトックス”を心がけてみてはいかがでしょう？ 〈情報・ 〉

『絶唱』(湊かなえ)

イヤミスではない湊かなえさんの作品。阪神淡路大震災を軸に展開し、トンガ島を舞台に繋がる4編の連作です。 〈英語・ 〉

『科学する麻雀』(とつげき東北)

学生時代に読み込んだ麻雀戦術書です。この本が出るまでの戦術書は、「ツキ」「流れ」などの検証不可能なものを元に書かれていて、大いに不満を感じていました。この『科学する麻雀』では、当時のこれらの風潮を批判するとともに、ベタ下りの仕方、押し引き戦術などが論理的、現実的に述べられていて、たいへん衝撃を受けたものでした。 〈数学・ 〉

『和声と楽式のアナリゼ』
(島岡譲／音楽之友社)

薄い本ですが、この一冊で西洋音楽を「正しく」演奏できるようになります。 〈音楽・ 〉

『プラスチック』(井上夢人)

2024年本屋大賞の新鮮なミステリー。読み終えたとき、タイトルであるプラスチック(可塑性)のもつ意味、そして誰しもに内包されているかもしれない複数の人格に、人やものの見方が変わるかも。 〈数学・ 〉

『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』(小野寺拓也、田野大輔)

みなさんはこのタイトルを見てどう思いますか？「物事の聞こえの良さに騙されない」というのは、歴史を学ぶ上で重要な姿勢だと思います。 〈社会・ 〉

『少年が来る』(ハン・ガン)

著者は昨年ノーベル文学賞受賞。1980年、軍事独裁政権時代の韓国で起こった光州事件。昨年末から今春までの韓国「戒厳」「大統領弾劾・罷免」が理解できるようになるはず。読むのがつらいけれど、隣国の市民として「民主主義」とは何か考えながら読んでほしい。 〈英語・ 〉

『深い河』(遠藤周作)

ユーモラスなキリスト教作家の集大成。これを読まずして、遠藤周作は語れない。 〈国語・ 〉

『ガロアの時代 ガロアの数学』(第一部 時代篇)(彌永昌吉)

二次方程式の解の公式は御存じであろう。三次・四次にも解の公式は存在するが、実は五次以上の方程式には解の公式がないということを、十代にして導き出した天才がいる。その名はエヴァリスト・ガロア。革命家としても生きた彼の僅か20年の生涯を激動の時代背景とともに記した、数学的な知識はそれほど要らない伝記要素の濃い作品。 〈数学・ 〉

『仮面山荘殺人事件』（東野圭吾）

男女8人が集まった山荘に、突然覆面をかぶった銀行強盗が侵入。緊張の人質事件。そんな中、どう考えても強盗犯が犯人ではない殺人事件が起こる。山荘内で何が起きているのか・・・最後まで読むと、タイトルの本当の意味が分かります。〈数学・〉

『近畿地方のある場所について』（背筋）

「小説」が苦手な人にもおすすめの一冊。こういう「小説」もあるんだ、という発見があるはず。でも、夏休みを利用して●●●●●●に行ったりするのはやめておいた方がいいです。〈国語・〉

『旅猫リポート』（有川浩）

猫も飼い主のことをこんなにも思っている！猫好きな人もそうでない人も一度読んでみてください。〈化学・〉

『プロジェクト・ヘイル・メアリー 上・下』（アンディ・ウィアー）

人類滅亡を回避するためのプロジェクトを描いたSF小説。主人公の語り口が軽妙で読みやすい。『火星の人』『アルテミス』と同じ作者です。〈化学・〉

『やっぱり食べに行こう。』（原田マハ）

日本も含め世界中の美味しいものが、経験に基づいて素敵な文体で紹介されています。パリのメトロで男性がジャケットの内ポケットから取り出したものはなんと・・・？〈英語・〉

『物理学とは何だろうか』 岩波新書上下

日本人2人めのノーベル物理学賞受賞者の名著。半世紀近く前に書かれてましたが、物理の概略がわかります。高校時代に読んでチンプンカンプンだった思い出が。大学時代でもダメでした。（笑）〈物理・〉

『バッタを倒しにアフリカへ』（前野ウルド浩太郎）

バッタの仲間は群れの個体密度が高くなるとその姿形や性質が変化し、人々に災いをもたらします。著者のバッタ博士こと前野ウルド浩太郎さんは、このバッタ被害を食い止めるためにモーリタニアに旅立ちます。本書はその過程を語る、科学冒険ノンフィクション。科学者の情熱とロマンが詰まった一冊です。〈生物・〉

『四十八人目の忠臣』（諸田玲子）

実際にあった赤穂事件をもとにして、人形浄瑠璃、歌舞伎、演劇、ドラマなど様々な作品で親しまれている忠臣蔵。討ち入り事件の成功を支えた一人の存在について焦点を当てた作品です。この作品を読んでから、歴史の教科書に出てくる事件のアナザーストーリーを考えるようになりました。〈社会・〉

『筋トレが最高のソリューションである』（Testosterone）

読めばわかる。
人生の本質を学びたければ筋トレせよ。〈体育・〉

『手紙屋』（喜多川泰）

私が初任校でお世話になった先生から頂いた本です。就職活動編と受験勉強編があり、なぜ働くのか、なぜ勉強するのかを主人公を通じて一緒に考えることができる内容です。今でも悩んだ時に、手に取る1冊です。みなさんも、良い本との出会いがありますように！

〈養護・ 〉

『グッド・バイ』（太宰治）

『人間失格』後の遺作で、未完ながらもことに喜劇。今日は七夕。出会いには別れが必然か、サヨナラダケガ人生なのか？

〈国語・ 〉

図書館におすすめ本コーナーを作っています。
新たな出会いがありますように！

■ 当面の予定 手帳にメモしよう！

8日(火) 60分5限

キャリア講演会

(手帳と筆記用具を持参して体育館へ。講演会后、簡単なアンケートがあります。Chromebookで回答)

9日(水) 午前授業・懇談週間(～7/18)

10日(木) 人権講演会(松原市文化会館)

17日(木) 進路集会

18日(金) 全校集会・大掃除

19日(土) 夏季休業(～8/19)